

8 リテラシー教育の実績

8.1 リテラシー教育の実施

(1) 図書館活用法※1

* 半期2単位（駿河台：春学期、生田：秋学期、和泉：2006年度より春学期・秋学期に開講、中野：2019年度より開講なし）

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
中央図書館	履修者数	73	67	36	66	57	49	40	49	50
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	15(11)	15(13)	15(11)	15(11)	14(10)	14(10)	14(8)	12(6)	14(8)
	担当講師数 ※3	14(10)	14(10)	15(12)	13(11)	13(8)	13(8)	14(10)	12(8)	15(11)
和泉図書館	履修者数	244	240	315	331	295	306	153	175	177
	開講数	4	4	4	4	4	4	2	2	2
	授業回数 ※2	60(44)	58(42)	56(40)	58(46)	56(36)	56(32)	28(16)	28(16)	28(16)
	担当講師数 ※3	24(22)	29(27)	27(25)	27(25)	29(23)	27(24)	21(19)	21(18)	21(18)
生田図書館	履修者数	26	36	29	27	76	36	27	46	49
	開講数	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	授業回数 ※2	15(10)	15(10)	15(10)	14(9)	14(6)	14(6)	14(6)	14(5)	14(6)
	担当講師数 ※3	9(6)	10(6)	9(6)	10(6)	12(6)	13(7)	12(6)	11(5)	10(4)
中野図書館	履修者数	11	10	16	32	4	9			
	開講数	1	1	1	1	1	1			
	授業回数 ※2	15(10)	15(10)	14(10)	15(10)	14(9)	14(8)			
	担当講師数 ※3	8(5)	8(5)	7(5)	8(5)	8	7(3)			
履修者総数		354	353	396	456	432	400	220	270	276

※1 2000年開講。2020年度、2021年度はコロナ禍によりオンライン授業で実施。

※2 カッコ内の数字は職員が担当した回。ただし、教員とともに担当した回は除く。

※3 複数のキャンパスを担当した場合はそれぞれに計上。カッコ内の数字は職員。

(2) ゼミツアー * フリーツアー（すべての利用資格者対象）含む

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
中央図書館	回数 ※1	62	56	61	59	60	62	66	0	3(46)
	履修者数	714	617	620	719	725	749	754	0	6
和泉図書館	回数	195	170	169	150	134	123	142	0	0
	履修者数	2,864	2,741	2,999	2,902	2,432	2,405	2,656	0	0
生田図書館	回数 ※1	25	21	18	13	23	23	20	12	(13)
	履修者数	167	218	211	132	261	272	237	354	262
中野図書館	回数 ※1	28	21	20	28	20	18	13	29	(14)
	履修者数	396	255	265	361	308	238	141	-	61

※1 カッコ内は動画提供数。

(3) 出前講義 * 「図書館活用法」を除く教室授業、図書館以外施設授業など

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
中央図書館	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	履修者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和泉図書館	回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	履修者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生田図書館	回数	8	8	10	18	18	18	12	12	12
	履修者数	286	286	422	384	405	417	311	407	296
中野図書館	回数	3	2	2	3	3	9	10	0	0
	履修者数	22	30	40	50	71	216	225	0	0

(4) 各種講習会 * 情報・文献検索講習会、DB 講習会、テーマ別講習会、グループガイダンスなど

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
中央図書館	回数	19	20	18	20	4	10	2	0	0
	参加者数	196	222	190	107	9	73	7	0	0
和泉図書館	回数	51	40	22	19	8	5	8	0	0
	参加者数	260	384	291	147	101	145	186	0	0
生田図書館	回数	10	23	8	1	2	13	18	2	2
	参加者数	200	197	121	7	62	320	1,026	121	61
中野図書館	回数	17	23	10	4	4	6	8	0	0
	参加者数	80	68	84	11	9	9	18	0	0

(5) オリエンテーション * 新入生、新任教員、三年次、留学生など

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
中央図書館	回数	8	13	12	10	7	8	7	0	0
	参加者数	1,132	970	893	1,148	1,278	1,094	163	0	0
和泉図書館	回数	8	8	7	11	13	13	12	0	0
	参加者数	4,987	5,196	5,677	5,093	7,881	5,222	5,206	0	0
生田図書館	回数	4	4	6	4	4	4	4	0	0
	参加者数	1,632	1,698	1,595	1,612	1,612	1,562	1,708	0	0
中野図書館	回数	6	5	5	7	8	8	6	0	1
	参加者数	890	627	665	784	889	806	739	0	20

(6) 見学・視察 * 各種団体、個人、学校など

		2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
中央図書館	回数 ※ 1	134	100	95	88	97	11	46	0	1
	参加者数	4,088	3,229	3,108	3,027	3,302	843	1,792	0	5
和泉図書館	回数 ※ 1		140	88	54	54	47	58	0	5
	参加者数	2,099	3,791	2,134	2,829	2,829	2,139	1,530	0	64
生田図書館	回数 ※ 1		0	3	2	2	1	1	0	0
	参加者数	232	285	2,972 ※ 2	453	453	516	293	0	0
中野図書館	回数 ※ 1	43	31	13	3	7	3	5	0	0
	参加者数	2,083	1,638	3,089	2,625	2,718	2,277	1,034	0	233

※ 1 個人での見学は含まない

※ 2 オープンキャンパスの参加者数を含む

8.2 全学共通総合講座「図書館活用法」

《春学期》

駿河台キャンパス

2021年度全学共通総合講座 講座計画書（シラバス）					
講座名			コーディネーター		
図書館活用法			学部・氏名		
開講キャンパス			経営学部 長野 史華		
単 位			開講期		
駿河台			春学期		
2			火		
4			日		
1 授業の概要・到達目標					
図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー）					
2 さまざまな情報、文献、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー）					
3 入手した情報、文献、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）					
4 就職活動に役立つ企業情報を入手できるようになる					
2 授業内容（日程・テーマ・担当者）					
回	日 程	テーマ	担 当 者		
1	4月13日	イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明） 図書館への招待（明治大学図書館の役割、設備・資料・サービス）	所属・役職 経営学部専任准教授 中央図書館学部長	氏 名 山田 幸太郎 山田 郁太郎	
大学で学ぶためには、図書館を利用することが不可欠です。図書館の膨大な蔵書は、豊かな教養、深い見識を養ううえでも貴重なものといえます。今回は、前編に引き続いて活用方法を行った後、実際に館内を回り見学を予定しています。さらに、普段は見ることのないバックヤードへのツアーを行い、大学図書館の業務がどのようなプロセスで行われているのかをご紹介します。					
2	4月20日	図書館ツアー（図書館の概要とバックヤードツアー）	所属・役職 図書館職員	氏 名 鈴木 世津子・大隅 功	
大学図書館の施設やサービス、資料の特徴を知り、それらの利用方法を理解することは、大学図書館の存在意義を理解することの第一歩です。この回は、前編に引き続いて活用方法を行った後、実際に館内を回り見学を予定しています。さらに、普段は見ることのないバックヤードへのツアーを行い、大学図書館の業務がどのようなプロセスで行われているのかをご紹介します。					
3	4月27日	レポート・論文の作成方法	所属・役職 経営学部専任准教授	氏 名 長野 史華	
レポート・論文は、自分の調査・研究内容について論理的に記述し、公表し、他者の理解を促すために書かれます。大学教育ではレポート・論文の作成が重視されており、この授業ではその作成方法について説明します。また、先行研究を調べることの大切さ、著作権意識を高めることについても取り上げます。					
4	5月11日	図書館と著作権	所属・役職 情報コミュニケーション学部専任教授	氏 名 今村 哲也	
学習、研究、論文・レポートの作成においては、多くの図書や雑誌（論文）、インターネット上の情報源も利用します。これらの著作権・情報の利用にあたっては、「著作権」について十分理解しておく必要があります。この講義では、著作権法の概要、著作権法にのっとり著作権・情報の適切な利用方法を学びます。					
5	5月18日	研究と図書館	所属・役職 経営学部専任准教授	氏 名 平塚 修洋	
研究者にとって、数多くの図書や論文、データなどを利用することは不可欠です。そこで、教員と大学院生の研究活動に図書館がどのように関わっているのか、特に論文を作成する際に図書館を活用することがいかに重要であるかについて説明します。					
6	5月25日	書物の読み方	所属・役職 経営学部専任准教授	氏 名 坪田 貴博	
書物の読み方には、その場にいながらにして様々な事象を直体体験できるといわれています。現在の社会では他国の文化に理解を深めることが益々重要になってきています。いくつかの書物を通して、一緒にその文化や価値の深みを感じてみたいと思います。					
7	6月1日	学術情報・図書館の動向と課題	所属・役職 図書館職員	氏 名 大野 恵子	
図書館や学術情報をめぐる現在の状況・問題と課題を知り、問題の背景を理解し、今後の学術情報のあり方について考えます。学術情報流通、コンソーシアム、オープンアクセスといったテーマを取り上げる予定です。					
8	6月8日	文庫・情報の探し方 (1) 文庫情報検索、図書館の入手と利用 【演習】	所属・役職 図書館職員	氏 名 杉谷 実和	
図書や雑誌など資料の形態にはいくつかの種類があり、それぞれ役割や特徴があります。学術情報の流通過程を理解し、各資料のよりよく活用できるよう解説します。また、図書の検索とその入手の仕方を知ります。なお、この講義の受講前に、図書館OPACの基本的な検索方法を各自学習しておく必要があります。					

和泉キャンパス

2021年度全学共通総合講座 講座計画書（シラバス）					
講 座 名				コーディネーター	
図書館活用法				学部・氏名	
開講キャンパス				商学部 石黒 太郎	
和泉		2	春学期	月	時 限
1 授業の概要・到達目標					
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. さまざまな情報、文献、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文献、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）					
2 授業内容（日程・テーマ・担当者）					
回	日 程	テーマ		所属・役職	担当者
1	4月12日	イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明） 大学図書館への招待		所属・役職 商学部専任教授 和泉図書館学部長	氏名 石黒 太郎 長野 愛華
本講座は、大学での学習に不可欠な図書館の活用に必要な知識とスキルの習得を目指します。書誌・索引・辞書・事典などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報や知識および文献の検索方法について解説します。最終的には、検索・入手された文献（図書や雑誌記事・論文）をもとに、レポートの作成を求めます。また、成績評価について説明します。					
2	4月19日	ヨーロッパにおける図書館の歴史		所属・役職 商学部専任教授	氏名 石黒 太郎
この授業では、ヨーロッパ、とくに古代・中世においてラテン語を学問の共通語とした西ヨーロッパにおいて、図書館の概念がどのように形成されてきたのか、主に言語的な資料を用いて概観します。「図書」や「文字」、文字を「記す」「読む」といったヨーロッパの語彙を語源から考察します。					
3	4月26日	図書館の機能と情報資源の変遷		所属・役職 商学部専任教授	氏名 石黒 太郎
中世から現代における西ヨーロッパの図書館の社会的役割、また図書館が保存、提供してきた図書館の形態の変遷を概観します。イングランドの図書館の歴史を中心に概観します。					
4	5月10日	論文の作成と図書館情報資源の利用		所属・役職 商学部専任教授	氏名 石黒 太郎
論文（英語でいうところのessay）の構成のひつと型の提示し、論旨を裏付ける情報を論文に組み込む基本的な方法を説明します。文庫や電子媒体から得た情報を引用する方法のひつとを解説します。					
5	5月17日	図書館サービスと著作権		所属・役職 文学部専任教授	氏名 青柳 英治
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に則して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文など、他の文庫を利用する際の権利の理解も目指します。					
6	5月24日	文庫・情報の探し方 (1) 図書①【演習】		所属・役職 図書館職員	氏名 松本 康子・豊満 朝子
明治大学図書館蔵書検索システム(Web-OPAC)の検索方法、検索結果である目録・分冊、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効果よく使いこなせるようにします。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。					
7	5月31日	文庫・情報の探し方 (2) 図書②【演習】		所属・役職 図書館職員	氏名 松本 康子・豊満 朝子
前回の内容をふまえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。					
8	6月7日	文庫・情報の探し方 (3) 雑誌論文①【演習】		所属・役職 図書館職員	氏名 和田 さくら・久松 薫子
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌記事データ、雑誌所蔵データの読み取りの説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号変遷、一括所蔵情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率的に雑誌を探し出し利用できるようになります。					

回	日 程	テーマ	所属・役職	氏名	担当者
9	6月15日	文庫・情報の探し方 (2) 雑誌・論文情報の入手と利用【演習】	所属・役職 図書館職員	氏名 和田 さくら・久松 薫子	
研究成果は最初には雑誌で公開されることが多く、最新の知見を取り入れるためには、雑誌論文の活用が不可欠です。本講では論文データベースの検索、参考文献リストからの論文探索、入手した論文で参考文献リストを作成する等の演習を通じて、雑誌論文を効率的に探し、入手する方法を学びます。					
10	6月22日	文庫・情報の探し方 (3) レファレンス情報と新聞記事・企業情報の入手と利用【演習】	所属・役職 図書館職員	氏名 久保木 和義	
レファレンス資料にはどのようなものがあり、どのように活用できるかを解説します。また新聞と新聞記事の特徴を知り、どのようなことが調べられるのか新聞を見ながら理解します。そして、これらの資料を使った企業情報の探し方を演習を通して習得し、就職活動に役立てるようになります。					
11	6月29日	文庫・情報の探し方 (4) 人社会データベースの紹介と電子情報の現在①【演習】	所属・役職 図書館職員	氏名 浅野 真子	
人社会系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報を手に入れるように、課題に沿って紹介します。個人ワーク・グループワークを交えながら、データベースの用途や特性を理解し、簡単な調査に用いることができるようになります。第11講と連続する内容になっています。					
12	7月6日	文庫・情報の探し方 (5) 人社会データベースの紹介と電子情報の現在②【演習】	所属・役職 図書館職員	氏名 西脇 亜由子	
人社会系のデータベースを目的に合わせて使い、必要な情報を手に入れるように、課題に沿って紹介します。個人ワーク・グループワークを交えながら、データベースの用途や特性を理解し、簡単な調査に用いることができるようになります。第11講と連続する内容になっています。					
13	7月13日	文庫・情報の探し方 (6) 図書館における情報のあり方（分類と書誌情報、図書基礎、情報組織化）【演習】	所属・役職 図書館職員	氏名 小野 聡	
図書からデータベース、配架までの、図書館における一連の流れを紹介します。また図書館システムとOPACとの関係を中心に、図書館における情報組織化の仕組みを理解し、皆さんの今後の図書館利用に役立つよう解説します。また、資料の分類についても紹介します。					
14	7月20日	まとめ（文庫・情報の入手からレポート・論文の作成へ）と総合テスト a: テスト、b: まとめ	所属・役職 経営学部専任准教授 図書館職員	氏名 長野 愛華 山田 幸太郎	
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文庫・情報の探し方や著作権等について確認します。					
3 履修上の注意					
講義（概論）と演習を組み合わせて、知識の習得だけでなく活用する術を身につけることを目指した授業で、各回、教員と図書館の職員が分かれて担当します。 演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。					
4 準備学習（予習・復習等）の内容					
各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した準備（本を読む、実際にツールに触れてみるなど）をして授業に臨んでください。また、授業後は、講義内容、配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。					
5 教科書					
教材として資料を配付します。					
6 参考書					
西井聡著『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版（2017、共立出版、ISBN978432006983） 佐藤望編著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技術入門』第3版（2020、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766426564） 高橋裕樹著『デジタル情報資源の検索』増訂第5版（2014、京都府立大学情報学研究会、ISBN9784820413256） 藤田節子著『図書館活用術：検索の基本は図書館に』新訂第4版（2020、日本図書館協会、ISBN9784816928154） 毛利和弘著『文庫調査法：調査・レポート・論文作成必携：情報リテラシー読本』第9版（2019、毛利和弘、ISBN9784820418184）					
7 成績評価の方法					
①平常点（25%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（50%）を総合的に判断します。 なお、第2回～第13回の授業において4回以上欠席した者、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。					
8 その他					
授業は14回ともオンラインで行います。					

《秋学期》

和泉キャンパス

2021年度全学共通総合講座 講座計画書（シラバス）

講座名		コーディネーター	
		学部・氏名	
図書館活用法		文字部 齋藤 泰則	
開講キャンパス	単 位	開講期	曜 日 時 限
和泉	2	秋学期	水 5
1 授業の概要・到達目標			
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）			
2 授業内容（日程・テーマ・担当者）			
回	日 程	テーマ	担当者
1	9月22日	イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明） 大学図書館への招待	所属・役職 文学部専任教授 図書館総務課長 氏 名 齋藤 泰則
本講座は、大学での学習に不可欠な図書館の活用に必要な知識とスキルの習得を目的とします。書籍・索引、辞書・事典類などのレファレンス資料に関する知識とその検索の技法について取り上げます。さらには、特定の課題に関するレポートの作成のために必要な情報および文獻の検索方法について解説します。最終的には、検索・入手された文獻（図書や雑誌記事・論文）をもとに、レポートの作成をめざします。また、成績評価について説明します。			
2	9月29日	図書館の機能と情報資源	所属・役職 文学部専任教授 氏 名 齋藤 泰則
大学図書館は、研究教育に必要な情報資源を選択・収集・組織・蓄積・提供するところにより、学生の学習を支援する施設です。この回では、大学図書館の基本的な機能と図書館情報資源に関する基本的な知識とスキルについて取り上げます。さらには、ある特定の主題に関する文獻を探索するための必要な探索戦略の構築が可能なスキルの習得を目指します。			
3	10月6日	レポート、論文の作成と図書館情報資源の活用	所属・役職 文学部専任教授 氏 名 齋藤 泰則
レポート（論文）の作成過程は、課題の設定と焦点化に始まり、情報の探索と収集、情報の加工をおして情報の生産と発信に至る過程です。このレポート作成過程において必要となる専門知識や情報を入力するために必要な辞書類や専門辞典の活用、および書籍・索引・目録を利用した専門図書や雑誌記事・論文の検索とその入手について解説します。また、レポートの執筆要領（引用文獻の記述方法を含む）についても詳しく取り上げます。			
4	10月13日	図書館サービスと著作権	所属・役職 文学部専任教授 氏 名 青柳 英治
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に則して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールの理解も目指します。			
5	10月20日	文獻・情報の探し方 (1) 図書①【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 吉田 千草・杉谷 実和
明治大学図書館蔵書検索システム(Web-OPAC)の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率的に使いこなせるようにします。また、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。			
6	10月27日	文獻・情報の探し方 (2) 図書②【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 吉田 千草・杉谷 実和
前回の内容をふまえ、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて具体的な説明・演習を行います。			
7	11月10日	文獻・情報の探し方 (3) 雑誌論文①【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 小倉 さなえ・飯塚 貴子
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌データベース、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号変遷、一括所属情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法の説明も行います。このことにより効率的に雑誌を探し出して利用できるようになります。			
8	11月17日	文獻・情報の探し方 (4) 雑誌論文②【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 小倉 さなえ・飯塚 貴子
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接検索することはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文・記事を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。			

生田キャンパス

2021年度全学共通総合講座 講座計画書（シラバス）

講座名		コーディネーター	
		学部・氏名	
図書館活用法		理工学部 管 啓次郎	
開講キャンパス	単 位	開講期	曜 日 時 限
生田	2	秋学期	金 4
1 授業の概要・到達目標			
1. 図書館の蔵書、施設、サービス内容を知り、図書や読書の意義を理解することにより、図書館を積極的かつ目的に応じて適切に利用できるようになる（図書館リテラシー） 2. さまざまな情報、文獻、資料の種類や特徴を理解し、目的に応じて適切な方法で検索、入手、利用できるようになる（情報リテラシー） 3. 入手した情報、文獻、資料を適切に利用し、レポート、論文やプレゼンテーション資料などを作成できるようになる（学術リテラシー）			
2 授業内容（日程・テーマ・担当者）			
回	日 程	テーマ	担当者
1	9月24日	イントロダクション（講座の概要、成績評価方法等の説明） 大学図書館への招待	所属・役職 理工学部専任教授 図書館総務課長 氏 名 管 啓次郎
教育・研究支援機関としての図書館は、大学の施設の中で最も複雑で多面的な機能を持っています。第1回目は本講座の概要、成績評価方法に関する説明等に加え、「有意義な大学生活を過ごすための上手な図書館の利用方法」についてもお話しします。			
2	10月1日	レポート・論文の書き方	所属・役職 理工学部専任教授 氏 名 管 啓次郎
レポートや論文を作成する際には、論考が通り書けにらないようには先行研究を参照する必要があります。授業では、論文の構成方法に加え、先行研究をどのようにレポートや論文の中に取り入れ、表記するのがよいのかという点についてもお話しします。先行研究の態様を正しく理解し、適切な文献において引用すること、参照箇所を明示しておくこと等が大切です。			
3	10月8日	文獻・情報の探し方 (1) 図書【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 低井 健
明治大学図書館蔵書検索システム(Web-OPAC)の検索方法、検索結果である目録・分類、請求記号や配架場所などのデータの読み取り方を身につけ、図書館の蔵書を効率的に使いこなせるようにします。また、本学図書館に所蔵しない資料を検索する方法や、ヒットした資料の利用方法などについて、具体的な説明・演習を行います。			
4	10月15日	本と教養1	所属・役職 理工学部専任教授 氏 名 清岡 晋吉
本と教養1の担当者はアメリカ文学・文化の研究者。映画および都市文化の研究者。フランス映画に描かれた都市を、新に移民問題、宗教的対立や地域といった具体的な側面から見てきた。本講座では、「読解する」対象は本だけではなく、都市や映像作品もその対象となること、これを「ゴジラ」等を参照しながら考えてゆく。			
5	10月22日	文獻・情報の探し方 (2) 雑誌論文①【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 柴田 晋
図書と雑誌の違いを理解したうえで、OPACの雑誌データベース、雑誌所蔵データの読み方の説明・演習を行います。説明には雑誌特有の記号変遷、一括所属情報などを含みます。さらに雑誌の利用方法についての説明も行います。このことにより、効率的に雑誌を探し出して利用できるようになります。			
6	11月5日	文獻・情報の探し方 (3) 雑誌論文②【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 柴田 晋
図書館の蔵書を検索するOPACでは、雑誌名で検索することはできません。その中の論文・記事を直接検索することはできません。論文・記事単位での検索を行うためには、OPACとは別の検索ツールを使う必要があります。その検索ツールの説明・演習を行います。このことにより、皆さんが必要とする論文・記事を素早く簡単に探し、入手することができるようになります。			
7	11月12日	本と教養2	所属・役職 理工学部専任教授 氏 名 坂下 剛 基太
本と教養2の担当者はアメリカ文学・文化の研究者。小説家トマス・ディンゲンと専門とするのみならず、広くメディアの歴史やデザインに関心をもち、自作の本作を制作している。教養があたりをとると、モノになる位相を見つめるながら、書物と文化との関係を再考する。			
8	11月19日	本と教養3	所属・役職 理工学部専任教授 氏 名 倉石 信乃
ヒトは得た知識をまとも世界を記述するのに、もっぱら書字と図像に頼ってきた。それらをもっとコンパクトかつポータブルなかつたでパケット化したものが、本。本こそが教養の基礎であり、知的探求の最良の道具であることは、電子情報時代の時代になっても変わらない。シリーズ「本と教養」では、人文系分野の教員たちが、本の出会いとつきあひ方を手紙にします。本と教養3では美術史・写真史の研究者が、広く美術史と現代との接点を論じつつ、情報源1本を紹介する。			

回	日 程	テーマ	担当者
9	11月24日	文獻・情報の探し方 (5) レファレンス資料【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 土田・久松 薫子
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれる。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べる方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入力する方法を学びます。			
10	12月1日	文獻・情報の探し方 (6) 新聞【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 堀野 満子・田村 純子
新聞は印刷物のほかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせれば事例や事件を調べただけでなく、議論などの時代における「空気」のようなものもつかい知ることが出来る有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞のデータベースを使いこなす技術が身につくよう練習します。			
11	12月8日	文獻・情報の探し方 (7) インターネット【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 吉光孝 美和子・種田 賢一
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。			
12	12月15日	文獻・情報の探し方 (8) (1)～(7)まとめ【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 堀野 満子・桑原 理恵
これまでの授業で学んできた様々な文獻・情報の探し方を振り返ります。それらを総合的に活用して、あるテーマを調査するのに必要な文獻を探し出す演習を行います。日々の学習や研究に役立つ文獻検索技術が身につくよう改めて練習し、自身の調査・検索における弱点を見つけていただき、さらにステップアップできる機会とさせていただきます。			
13	12月22日	図書の歴史と図書館	所属・役職 文学部専任教授 氏 名 三浦 太郎
図書の保存・利用の場として、図書館は歴史的にどのように発展し現在の姿に至っているのでしょうか。古代・中世・近世・近代それぞれの時期、洋の東西を問わず、図書館にはさまざまな姿がありました。ここでは、日本の江戸期から明治期にかけての図書館（文庫）を取り上げ、その特徴について理解したいと思います。			
14	1月12日	まとめと総合テスト a: テスト、b: まとめ	所属・役職 文学部専任教授 図書館職員 氏 名 三浦 太郎・桑原 理恵
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。			
3 履修上の注意			
講義（概論）と演習を組み合わせて、知識の習得だけでなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回を、教員と図書館の職員が分かれて担当します。 演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した準備（本を読む、実際にツールに触れてみるなど）をして授業に臨んでください。また、授業後は、講義内容・配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。			
5 教科書			
教材として資料を配付します。			
6 参考書			
酒井聡樹著『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版（2017、共立出版、ISBN9784320005983） 佐藤智樹著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第3版（2020、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766426564） 高橋裕樹著『デジタル情報資源の検索』増訂第5版（2014、京都府立大学情報学研究会、ISBN9784820413226） 藤田節子著『図書館活用術：検索の基本は図書館に』新訂第4版（2020、日外アソシエーツ、ISBN9784816928154） 毛利和弘著『文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携・情報リテラシー読本』第8版（2019、毛利和弘、ISBN9784820418184）			
7 成績評価の方法 ※レポート・小テスト・定期試験・平常点の評価は、それらの割合を明示のこと			
①平常点（25%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（50%）を総合的に判断します。 なお、第2回～第13回の授業において4回以上欠席した者、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。			
8 その他			
授業は14回ともオンラインで行います。			

回	日 程	テーマ	担当者
9	11月26日	文獻・情報の探し方 (4) レファレンス資料【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 寺土 真理
図書館で所蔵する様々な資料の中には、効率よく調べものをするのに適した図書が存在し、参考図書、あるいはレファレンスブックと呼ばれる。学習のための調べものはインターネット検索だけでは不十分な場合があります。この回では、図書およびオンラインのレファレンス資料を活用して事例や文獻について調べる方法、また、論文・レポートのテーマ設定をし、その基本情報を入力する方法を学びます。			
10	12月3日	本と教養4	所属・役職 理工学部専任教授 氏 名 飯田 崇
本と教養4の担当者は哲学者、環境人文学者、民藝研究とともに、生活の中に埋もれた考え方を、感じ方、人々とのつながり、人と土地や環境との関わりなどを、現地調査をつうじて考えてきた。ここでは環境人文学的思考を念頭に置き、現代の教養がめざすべき方向を語る。			
11	12月10日	文獻・情報の探し方 (5) 専門情報・新聞【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 寺土 真理
新聞は印刷物のほかデータベース等を使って検索・閲覧することが出来ます。うまく使いこなせれば事例や事件を調べただけでなく、議論などの時代における「空気」のようなものもつかい知ることが出来る有用なツールです。この授業では演習を行い、新聞を使いこなす技術が身につくよう練習します。また、自然科学分野における「文獻・情報」には、特許や規格などがあります。これらの専門資料について、それぞれの特性、探索・入手方法を学びます。			
12	12月17日	図書館サービスと著作権	所属・役職 文学部専任教授 氏 名 青柳 英治
この授業では、レポートや論文の執筆時に活用する図書、雑誌記事・論文、インターネット上の情報資源の利用にあたり、理解が求められる著作権法を取り上げます。具体的には、法の概要を把握し、法に則して図書館が扱う資料・情報資源の利用の仕方を学びます。あわせて、レポートや論文で、他の文獻を引用するルールの理解も目指します。			
13	1月14日	文獻・情報の探し方 (6) インターネット【演習】	所属・役職 図書館職員 氏 名 阪本 信一
インターネット上の情報の種類、探索方法、特性、評価などについて説明し、検索エンジンについても理解を深めます。また、インターネットを通じて利用する重要な情報として、電子ジャーナル、電子ブック、機関リポジトリについても説明・演習を行います。			
14	1月21日	まとめと総合テスト a: テスト、b: まとめ	所属・役職 理工学部専任教授 図書館職員 氏 名 阪本 信一・菅原 健
あるテーマについて調査し自分の考えをまとめて表現することは、レポート・論文の作成という学習の場に限らず、日常生活においても、また社会に出てからも必要な技術です。それを確実なスキルとして身につけるために、最後の総まとめとして、これまで学んだ文獻・情報の探し方や著作権等について確認します。			
3 履修上の注意			
講義（概論）と演習を組み合わせて、知識の習得だけでなく活用する術を身に付けることを目指した授業で、各回を、教員と図書館の職員が分かれて担当します。 演習では、実際にパソコンを操作してデータベースの検索等を行うため、履修にあたっては、MIND利用講習会を受講済みであることを必須とします。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
各回のテーマ、シラバスに記載された内容に関連した準備（本を読む、実際にツールに触れてみるなど）をして授業に臨んでください。また、授業後は、講義内容・配付資料に基づいて振り返り、得た知識を定着させるよう努めてください。			
5 教科書			
教材として資料を配付します。			
6 参考書			
酒井聡樹著『これからレポート・卒論を書く若者のために』第2版（2017、共立出版、ISBN9784320005983） 佐藤智樹著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』第3版（2020、慶應義塾大学出版会、ISBN9784766426564） 高橋裕樹著『デジタル情報資源の検索』増訂第5版（2014、京都府立大学情報学研究会、ISBN9784820413226） 藤田節子著『図書館活用術：検索の基本は図書館に』新訂第4版（2020、日外アソシエーツ、ISBN9784816928154） 毛利和弘著『文獻調査法：調査・レポート・論文作成必携・情報リテラシー読本』第8版（2019、毛利和弘、ISBN9784820418184）			
7 成績評価の方法 ※レポート・小テスト・定期試験・平常点の評価は、それらの割合を明示のこと			
①平常点（25%）、②総合テスト（25%）、③期末レポート（50%）を総合的に判断します。 なお、第2回～第13回の授業において4回以上欠席した者、②総合テストの未受験者、③期末レポートの未提出者は、成績評価の対象としません。			
8 その他			
授業は14回ともオンラインで行います。			